神奈川県議会議員 西村くにこ

# 県政報告

発行：2023年3月



ホームページ
http:// 西村くにこ .com/
Facebook
https://www.facebook.com/nishimura.kuniko

▲ホームページ　▲ Facebook

## 予防・早期発見・早期治療・リハビリ等
# 循環器病対策を推進！

神奈川県の死亡原因を見ると「心疾患」が「がん」に次いで第２位、「脳血管疾患」は第４位（令和２年神奈川県衛生統計年報）。県民の命を守るためには循環器病対策が重要なことは明らかです。

私はこれまで繰り返し循環器病対策の充実を訴えてきました。令和３年第３回定例会の代表質問では、「最適な医療機関への搬送システムの構築」や「科学技術を駆使した医療提供」などの具体的な提案を示しながら、本県の策定する「神奈川県循環器病対策推進計画」を意義あるものとするよう求めました。令和４年３月に策定された計画には、私の提案も随所に盛り込まれました。計画を実効性のあるものにするために、本年３月９日の予算委員会では、計画策定後の取組や、今後の方向性について質しました。

### 心疾患対策～予後の改善のために

神奈川県では、心疾患の予後の改善に効果があるとされる**心臓リハビリテーション**の実施率が、全国と比べて低くなっています。令和５年当初予算案には、心臓リハビリテーションの実施体制を強化するため、医療機関が必要な設備を整備する際の補助が計上されました。また、令和５年度は、心疾患の医療体制に関する実態調査を行い、さらなる課題を把握して、今後の施策に繋げてまいります。

### 脳血管疾患対策～最新の救急搬送体制へ

県が令和３年度に実施した実態調査により、**回復期リハビリテーションを行う病床の確保**が課題だということがわかりました。当初予算には、医療機関が回復期病床を整備する際の補助が計上されています。

また、脳血管疾患においては、早期に治療を開始できなければ、障がいが残るなど、その後の日常生活に大きな影響を及ぼす可能性があります。聖マリアンナ医科大学では、救急隊員が小型カメラをつけて患者の映像をリアルタイムで病院に届け→病院にいる医師が遠隔で診断し→搬送前に受け入れの準備を開始するといった「ローカル５Ｇ」の実証実験に取り組んでいます。県も参加して、このような**ＩＣＴやデジタル技術を活用した消防機関と医療機関の効率的な連携**を研究してまいります。あわせて県民に対して、脳卒中の早期症状を理解し、速やかに救急通報できるよう、正しい知識の普及啓発も推進します。

### 突然の脳梗塞を防ぐために

日本における寝たきりの患者さんの５人に１人は「心原性脳塞栓」が原因という報告があります。「心原性脳塞栓」とは、心房細動などの不整脈が原因で心臓にできた血栓が脳の血管を詰まらせることで起こる重篤な脳梗塞です。予防するためには、心房細動を早期に発見し治療を行なわなければなりませんが、心電図検査の際に発作が出ていなければ見逃されてしまいます。また、約４０％の人に自覚症状がないため、気づかないうちに発症していることもあります。このような**「隠れ心房細動」の患者数は全国に１００万人**と推定され、治療を受ける機会がないまま、ある日突然、重症の脳梗塞を発症するおそれが高いのです。

### いのちを守るテクノロジーを導入

神奈川県では来年度、**ＡＩを用いて、人の目では見逃されていた心房細動の可能性を把握**する研究への支援を行います。具体的には、県内の特定の医療機関で、健康診断で来院した人の心電図データを用いてＡＩ解析を行い、心房細動の可能性が発見されれば、詳細な検査や治療に繋げます。こうした研究により、効果が確認できれば、他の医療機関にも展開する予定です。

これからも「いのちを守る」医療提供体制の充実をめざしてまいります。